

# ひとり親家庭における新型コロナウイルスによる影響調査について

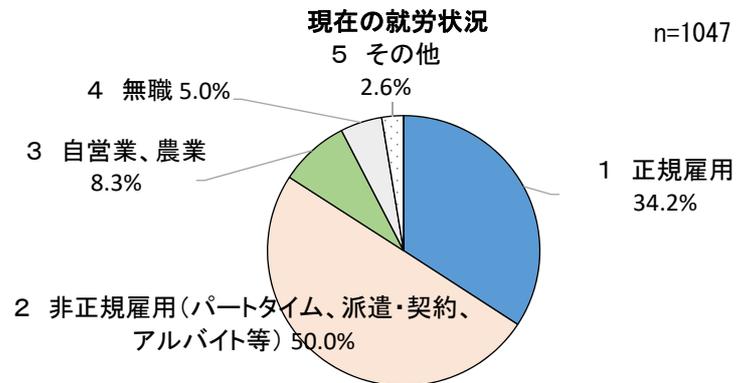
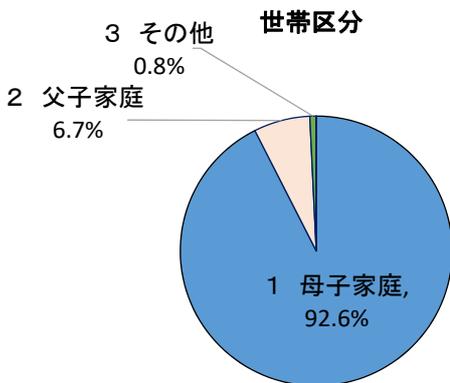
県民文化部 こども・家庭課

## 1 調査の概要

- (1) 調査目的 新型コロナウイルスがひとり親家庭に与える影響を調査し、今後の施策に反映する。
- (2) 調査対象 ひとり親世帯臨時特別給付金（以下「給付金」という。）の支給を受けた者
- (3) 調査期間 令和2年9月17日から令和3年2月26日まで
- (4) 調査方法 給付金のお支払い通知を郵送する際にアンケート用紙（QRコード記載）を同封し、電子申請又はFAXにより回答
- (5) 回答数 1,047人

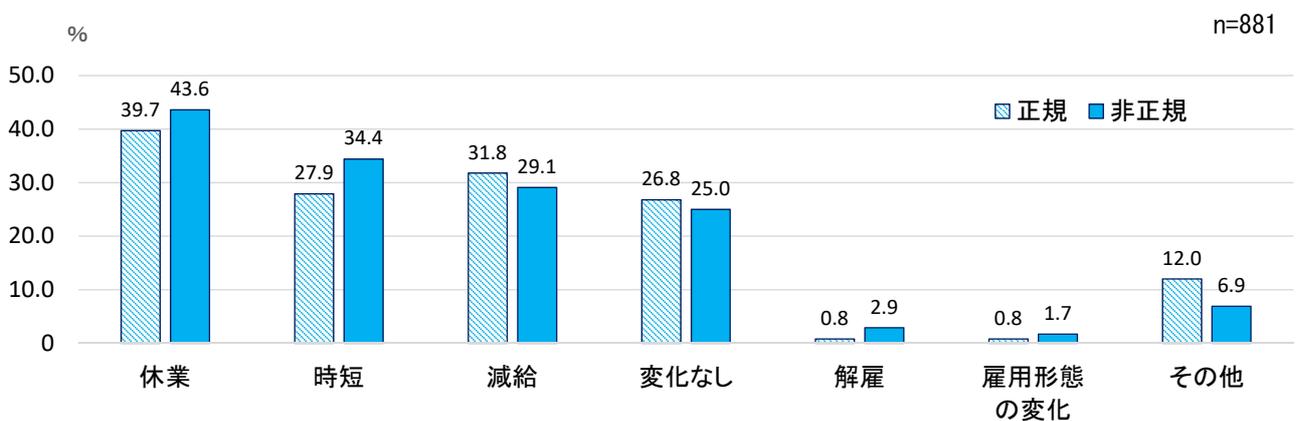
## 2 調査結果の概要

### (1) 回答者の属性



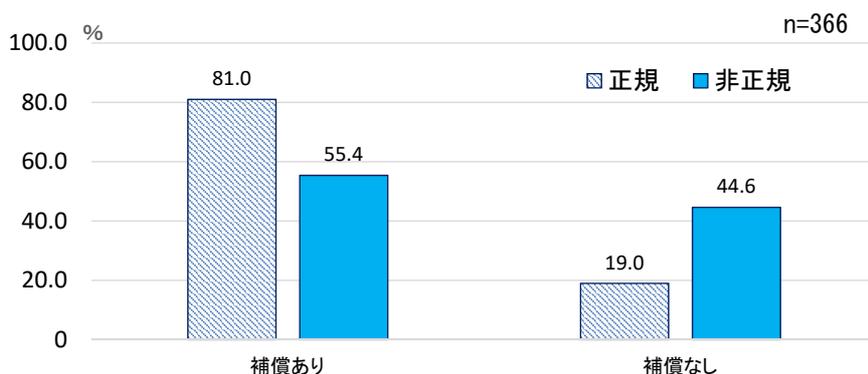
### (2) コロナの影響による就労状況の変化(複数回答)

正規労働者に比べて、非正規労働者の方が、休業や勤務時間の短縮の影響を受けた割合がやや高い。



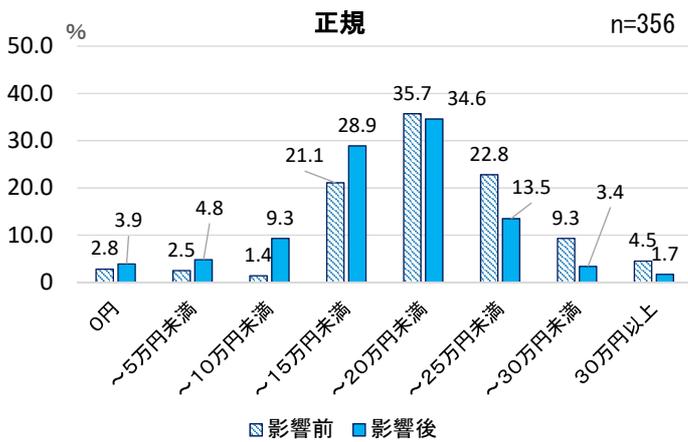
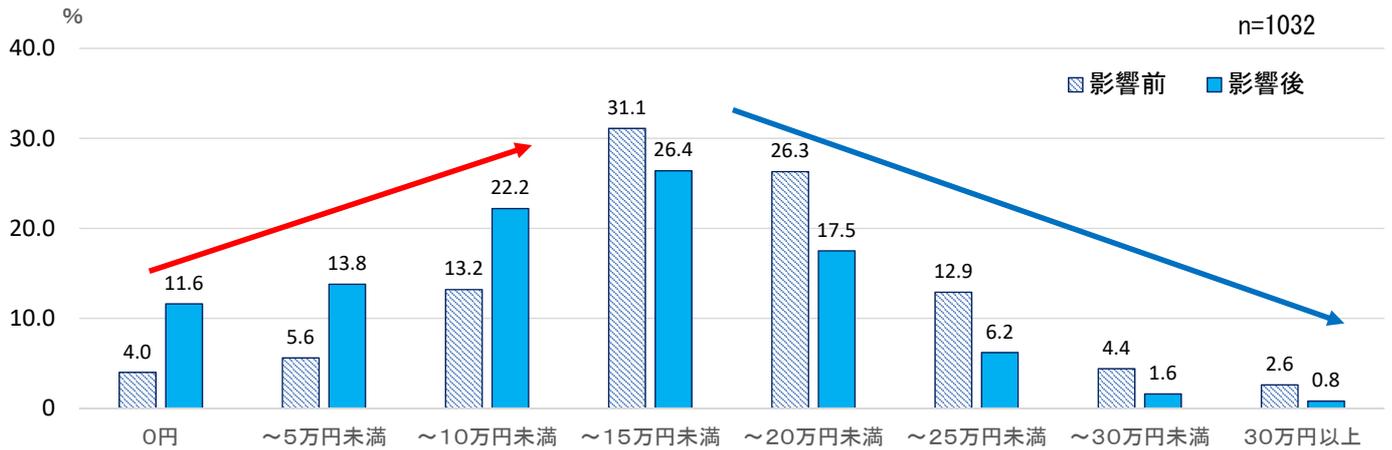
### (3) 休業があった者の休業補償の有無

正規労働者に比べて、非正規労働者は、休業補償があったと回答した者の割合が25.6%低い。また、正規・非正規ともに休業補償を受けられない者が一定割合いる。



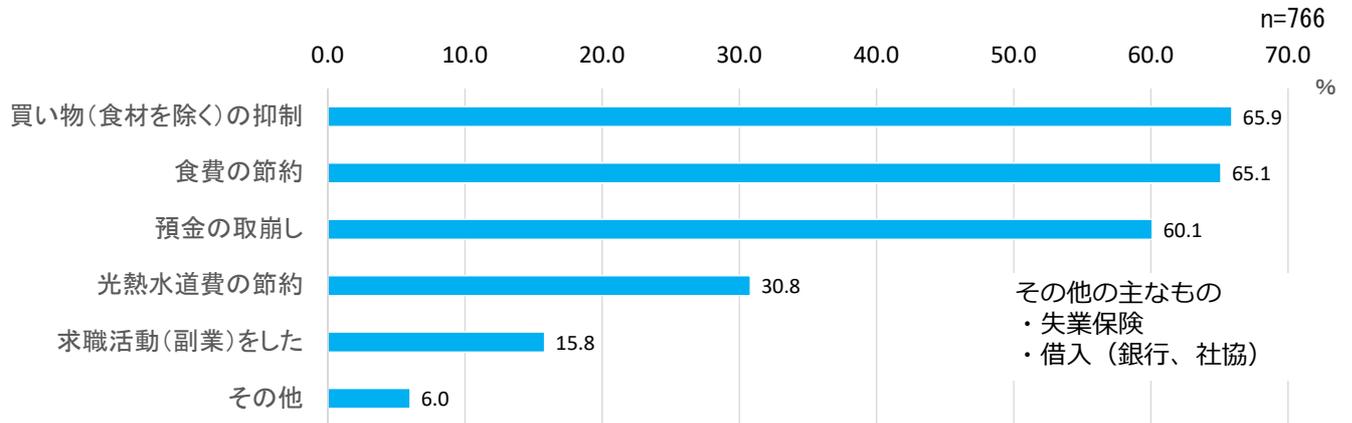
(4) コロナの影響による収入（月額）の変化

月収10万円未満の割合が増加する一方、月収10万円以上の割合が減少している。  
特に、非正規労働者は、月収10万円以上20万円未満の割合が10%以上減少している。



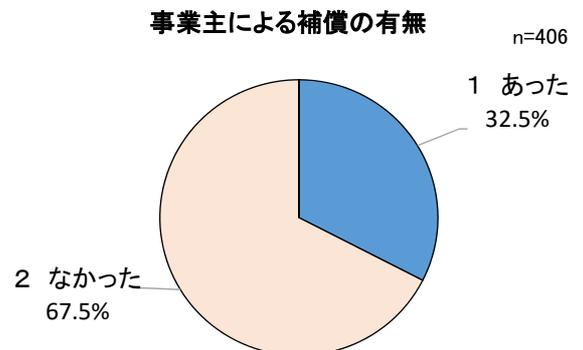
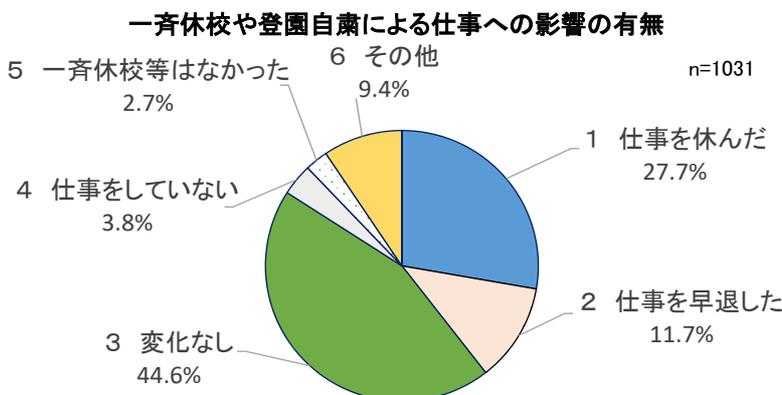
(5) コロナの影響による減収への対応(複数回答)

減収した家庭の6割以上が、出費の節約、預金の取崩し等により減収に対応している。



(6) 一斉休校や保育所等の登園自粛による仕事への影響と事業主からの補償の有無

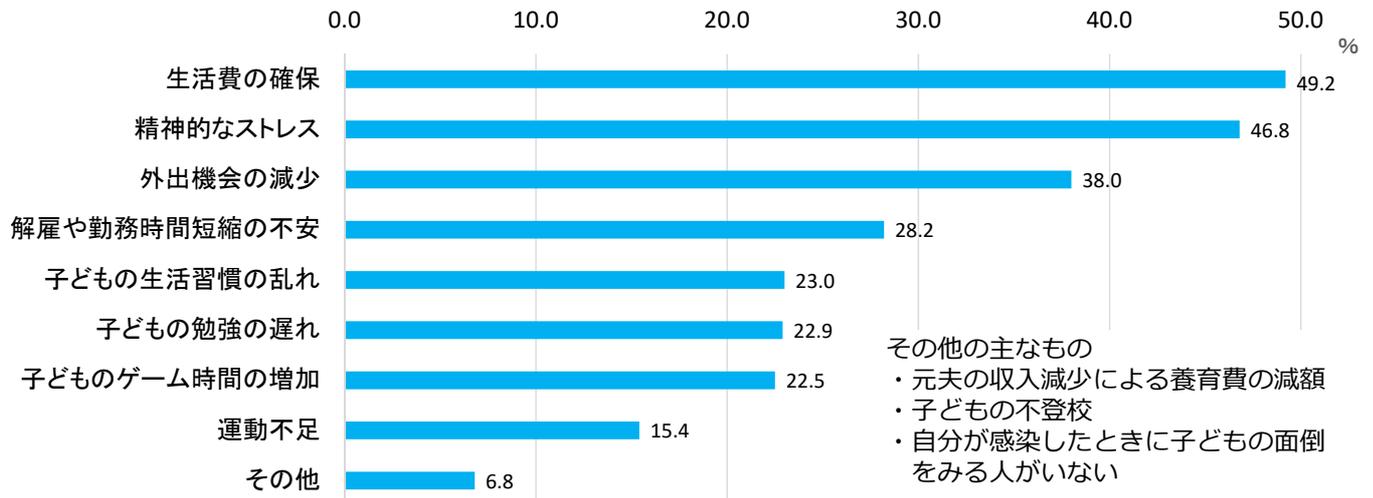
約4割のひとり親家庭が、休校等に伴い仕事を休んだり、早退したりしているが、補償(有給休暇の取得等)を受けた割合は3割程度にとどまる。



(7) 新型コロナウイルスの影響による困りごと（複数回答）

約半数のひとり親が、生活費の確保、精神的なストレスを挙げている。

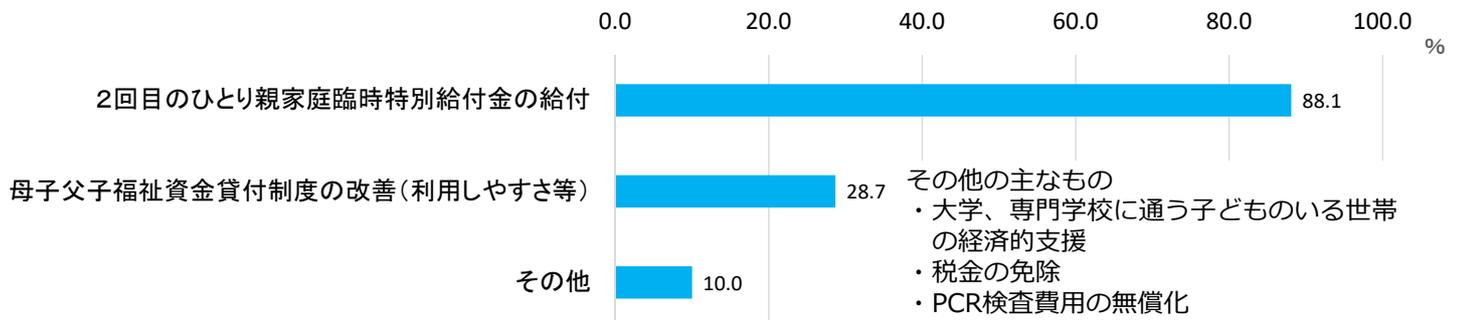
n=1020



(8) 経済的支援で行政に期待すること（複数回答）

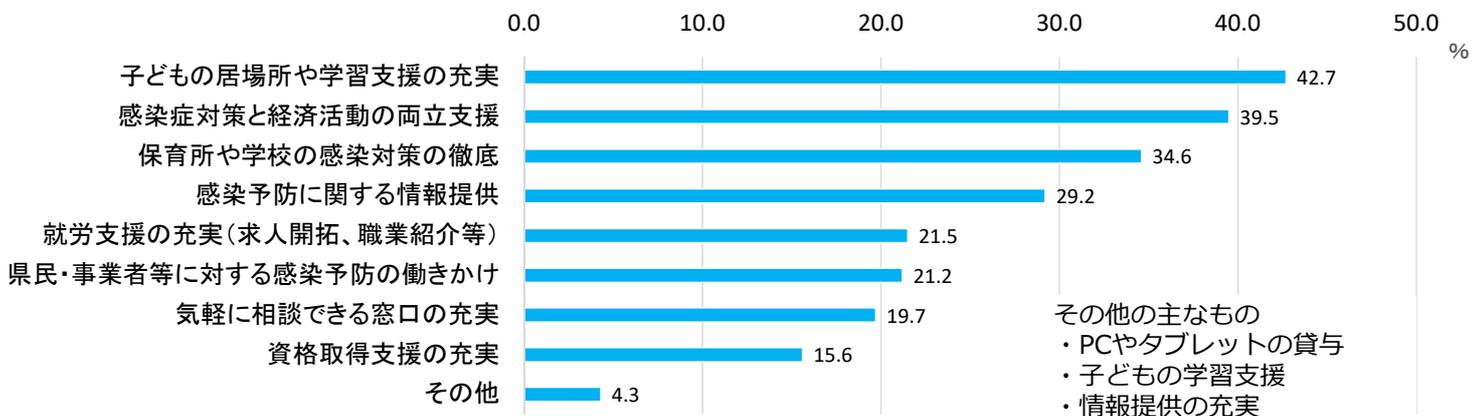
2回目の給付金の支給を希望する割合が高い。

n=966



(9) 経済的支援以外で行政に期待すること（複数回答）

n=1006



(10) 主なご意見

給付金 ○ 給付金は助かった。感謝する。

○ 1回限りの給付金では不十分。前年所得で判定する児童扶養手当の見直し。

○ 面倒で分かりにくい手続きを改善してほしい。

生活 ○ 元夫の収入にも影響があり、養育費が滞ると生活が厳しくなる。

○ 収入は変わらなくても、休校などにより出費が増加したことで生活が厳しくなっている。

○ お金のことが不安。

子ども ○ 自分が感染したときに子どもはどうなるのが不安。

○ 子どものオンライン授業に参加できるよう、インターネット環境の整備をしてほしい。

○ 大学生又は専門学生の子どものいる世帯の支援も考えてほしい。奨学金だけでは賅えない。

不安等 ○ 先が見通せなくて不安。生活の不安で精神的に追い込まれる。子どもがストレスで不安定。

○ 役場の窓口が相談しにくい。

○ ひとり親家庭ばかりに補償が出るのは不公平との声を聞く。母子家庭への偏見は根深い。